

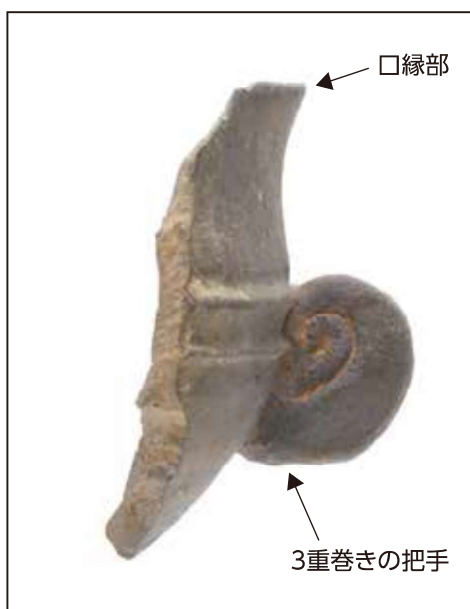
# 太宰府の文化財

437

## 渦巻型の把手がついた土器(ジョッキ形土器)

### 大宰府条坊跡第336次調査 観世音寺3丁目地内

令和2年6月～8月にかけて、坂本公園から南に下った住宅街の一角で発掘調査を行いました。ここから少し変わった形の土器が見つかりました。土器はジョッキ形土器というもので、その形は全国的にも珍しい



ジョッキ形土器外面



断面に見える把手接合部

前半)にみられる特徴的な土器です。この土器は須恵器という朝鮮半島から伝わった焼き物の一つで、須恵器が日本に伝わった頃の比較的短い期間に作られ、朝鮮半島(伽耶地域)にみられる形・特徴が共通した土器であり、「初期須恵器」と呼ばれています。

調査で見つかった土器を見ると、目を引くのが渦巻き型の把手です。把手は粘土紐を3重に巻いて貼り付けたもので、復元すると口径は約9cm、高さ6cm以上のものになりそうです。また、断面をよく観察してみると

と、把手はただ貼り付けるだけではなく、土器の側面に穴を開け、そこに把手の粘土紐を通し、内外面から丁寧に接合されていることが分かりました。このような製作技法は朝鮮半島と同じです。

渦巻き型の把手をもつ土器については、福岡県朝倉市にある古寺墳墓群から出土したものがありません。こちらは渦巻きが5重になっているもので、国内出土では唯一の例として知られています。今の段階では、今回出土した渦巻き型の把手がついたジョッキ形土器の発見は、国内で2例目となる可能性があり、朝鮮半島との関係を示す貴重な遺物といえます。

太宰府市内では、今回見つかったジョッキ形土器のほか、初期須恵器に該当するものは国分の千足遺跡第3次調査で見つかった程度です。この時代の遺跡は数が少ないため今回の発見は、当時の様子を知ろうと重要な手がかりとなります。

文化財課 中村 茂央

編集/太宰府市総務部経営企画課: 7818-0198  
092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号  
keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSの  
フォローをお願いします!



広報だざいふ 2021.10.1 (令和3年)